

カリキュラム・  
マネジメントの手引き  
**実践編**



# 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて

～生きて働く「学校・地域連携カリキュラム」にするために～



やろうっちゃ  
カリマネ!



©山口県



はじめに

# カリキュラム・マネジメントがあなた自身に関係あるって知っちゃった？



あなたの学校では、子どもたちに力を付けるカリキュラム・マネジメントが行われていますか。この手引きでは、学校がぶつかる壁や課題を取り上げ、解決の糸口となる事例を紹介します。カリキュラム・マネジメントが自分事になったとき、子どもたちに力を付ける教育活動が更に充実してくることでしょう。

こんな悩みや思いはありませんか？

カリキュラム・マネジメントって管理職がするものじゃないの？

「学校・地域連携カリキュラム」を作ったきり見ていないなあ……



熟議にどうやって子どもを参加させたらいいかわからない……

毎日忙しくて新しいことは無理！今のままじゃだめなの？

まずは、学校教育目標とあなた自身がどのように関わっているのかを考えてみましょう。

ここからやってみよう！

手引きに掲載している学校の Web ページを見たり、話を聞いたりするのもいいですね。



< 目次 >

I はじめに  
「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた  
第一歩を踏み出そう Q1～Q2

II 子どもの資質・能力を育成するための手立て  
学校運営や授業につなげよう Q3～Q8

III 地域と協働して学びを豊かにするための手立て  
人や仕組みを知ろう Q9～Q11

IV 組織づくりの手立て  
研修や評価を活用しよう Q12～Q14

V おわりに  
めざすところを共有しよう Q15

※ カリキュラム・マネジメントや「学校・地域連携カリキュラム」については、理論編の手引き(令和3年3月)も併せてご覧ください。



# Q1 コミュニティ・スクールのチカラを生かしちよる？

「地域の人・モノ・コト」を活用し、子どもたちの学びを豊かにするとともに、資質・能力を着実に育む上で、コミュニティ・スクールであることが大きな強みになります。



知っちよる？



□学校・家庭・地域が目標やビジョンを共有し、**学校運営**の質を向上させる視点が大切です。

□「**学校・地域連携カリキュラム**」は、カリキュラム・マネジメントにとって有効なツールです。

□コミュニティ・スクールを核とした「**熟議**」は、「**社会に開かれた教育課程**」の実現に向けた第一歩です。

□**地域学校協働活動推進員**は学校・家庭・地域の連携・協働を推進してくれます。



# Q3 子どもたちに付けたい資質・能力が日々育まれちよる？

「学校・地域連携カリキュラム」は、「ビジョンの共有」に有効なツールです。熟議の過程で教育活動の質を向上させる視点が見えはじめ、学校・地域の「よさ」や「こだわり」が明確になります。「よさ」や「こだわり」を意識して練り直した「学校・地域連携カリキュラム」を効果的に活用し、子どもたちの資質・能力を日々育てていきましょう。

## 付けたい**資質・能力**や、中学校区でめざす子ども像等の共有

「学校・地域連携カリキュラム」

熟議

「学校・地域連携カリキュラム」の再構成



子どもたちが当事者意識をもち、主体性を発揮する場の設定

ここが意識されちよる？

### 各教科等

- ☑日頃の授業で、子どもたちに**資質・能力**が身に付いているか。
- ☑子どもたちの学びを豊かにするためのヒト・モノ・コトが用意されているか。
- ☑振り返りから、子どもたちの変容が見て取れるか。



授業における振り返りの充実

### 総合的な学習の時間

- ☑付けたい**資質・能力**は明確か。
- ☑小1から中3までの子どもの発達の段階に応じて、**資質・能力**は高まる構成か。
- ☑学校教育目標を踏まえた探究課題が設定できているか。
- ☑行事の羅列に留まっていないか。
- ☑地域の教育資源を見いだせているか。

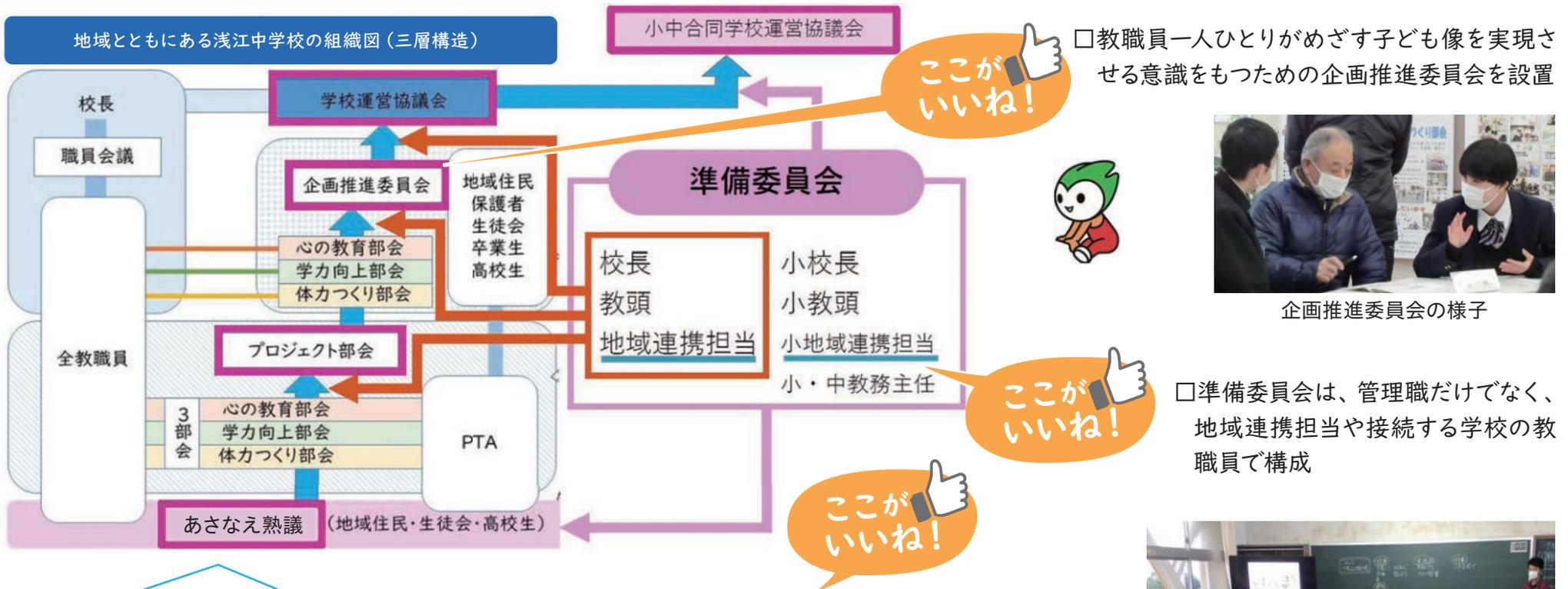


地域素材を生かし、社会科と関連付けた課題解決学習

# Q4 熟議した内容が学校運営につながりよる？

## 生徒参加の熟議を学校運営につなげる光市立浅江中学校の取組

光市立浅江中学校では、熟議を学習活動の一環と捉え、熟議を通して教育活動を充実させています。毎年夏休みに100名以上が参加する熟議には、生徒や地域住民だけでなく卒業生も参加しています。熟議で決まった内容を具体的に計画し、実践に移しています。また、複数年にわたってPDCAサイクルを回し、めざす子どもの姿をバージョンアップさせているところも参考になります。



企画推進委員会の様子



あさなえ熟議の様子

### あさなえ熟議とは

浅江小・中の関係者が一堂に会し、学校、家庭、地域が連携して、よりよい教育活動を生み出していくための話し合いの場

地域住民  
保護者  
教職員  
卒業生  
生徒

- オンラインで各教室をつなぐことで大人数の参加が可能
- 卒業後も継続して学校や地域に関わるメンバー構成

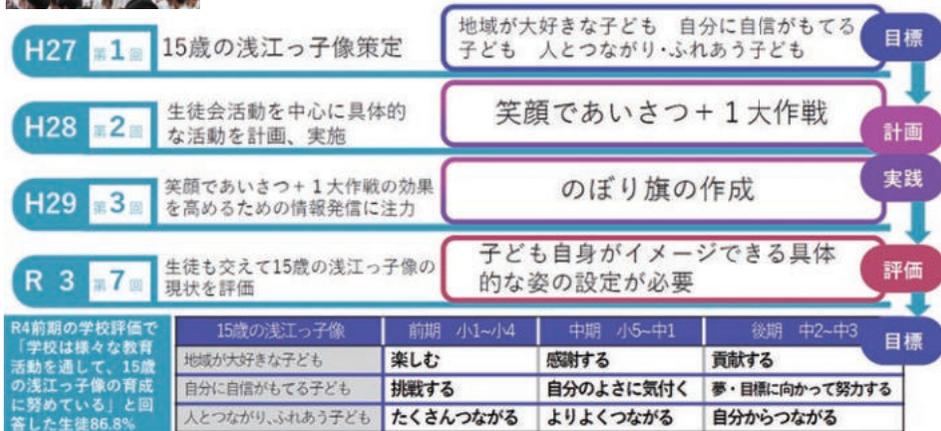
## 【あさなえ熟議のテーマ】

H27	第1	15歳の浅江っ子がどうなってほしいか考える
H28	第2	「15歳の浅江っ子像」から私たちにできる具体的な方策を考える
H29	第3	笑顔であいさつ+1大作戦の深化
H30	第4	安全・安心な浅江地区をめざして
R元	第5	安全・安心な浅江地区をめざして
R2	第6	SNSの正しい使い方・関わり方～これからの情報モラル教育について～
R3	第7	15歳の浅江っ子像の現状～浅江っ子像策定5年を経過して～
R4	第8	みんなで創ろう小中一貫あさなえ学園～学園の未来や夢を語り合おう～



生徒総会であさなえ学園目標を協議

### 学校運営に反映



ここが  
いいね!

R3の熟議で浅江っ子像の現状を把握し、子ども自身がイメージできる評価を設定

### 熟議のコツ

- 管理職以外に中核となる地域連携担当や学年主任等がいること
- ファシリテーターの存在が重要
- 全教職員が関わること
- 子どもが熟議の目的を理解していること

### 熟議の効果

- 熟議を通して設定した目標は形骸化しにくい。
- 支持的風土が醸成され、支援が広がる。
- 目標達成に向けた当事者意識が強まる。

## 児童生徒が参画する熟議を実施する上での留意点



参加者が、児童生徒と熟議することの必然性や有用感を感じられるようなテーマや構成を工夫しましょう。

◆児童生徒の参加が目的ではありません。なぜ、その熟議に児童生徒を参加させるのか（意義や理由）。何を学ばせたいのか（コンテンツ）。どんな力を付けたいのか（コンピテンシー）。児童生徒を含む参加者全員が共有しておきたいですね。



児童生徒が思いや願い、アイデアをもって臨むようにしましょう。

◆児童生徒（指導する教職員も）が何も準備せず熟議に臨んでしまうと主体的な学びにはつながりません。事前に「熟慮」し、自分なりの意見をもつことが大切です。熟議そのものからも大きな学びを得られますが、熟議に向けた学習、熟議を終えてからの学習も大事にしましょう。



児童生徒の意見を聞いて終わっていませんか？児童生徒の思いや願いの具現化をめざす関係者の連携・協働につなげていきましょう。

◆児童生徒に自己有用感や達成感を味わわせるためにも、熟議の内容を絵に描いた餅とするのではなく、実現に向かって取組を進めること、そのために大人たちの本気の姿を見せることが重要です。

# Q5 学習の基盤となる資質・能力が授業を通して育成できちよる？



## 教科等横断的な視点からカリキュラム・マネジメントを推進する周南市立徳山小学校の取組

授業を通して、めざす資質・能力を育てるために、教科等横断的な視点からカリキュラムを組み立て、年間スケジュールに沿ってPDCAサイクルを回していきます。

### 実践1 全校体制で進めるために

#### ポイント① 教科等をつなぐ「横断歩道」の決定

子どもの実態を踏まえて、教科等をつなぐ「横断歩道」としての子どもに重点的に育成をめざす資質・能力を「言語能力」に決めました。平成30年度以降、継続して「言語能力」の育成に取り組んでいます。



#### ポイント② 保護者や地域住民、子どもとの共有

「言語能力」を分かりやすく「ことばの力」と言い換えて、「子どもたちに『ことばの力』を育てていくこと」を大切にしているという学校の方針を、PTA 総会や学校運営協議会、全校集会、学校だより等を通して周知を図っています。



#### ポイント③ 年間のスケジュールリング

スケジュールはできるだけ動かさないことが大切です。2~3年PDCAサイクルを回すうちに、教職員が「体感としてカリキュラム・マネジメントを学ぶこと」や「評価・改善につなげること」ができるようになってきています。



### 実践2 年間のスケジュールリング

#### 1学期：カリマネ ミーティング

「ことばの力」を軸に、教科等横断的な視点で、教科・単元等を関連付けて捉えるために、学年の単元配列表を基に、どんな力を、どの教科・単元等で付けていくかについて協議します。

#### 夏休み(7月)：カリマネ熟議

学年でめざす児童像とその実現のために、付けたい力や1学期の成果と課題について、低・中・高学年部会に分かれて学校運営協議会委員にプレゼンし、その後、2学期以降の取組について熟議を行います。

#### 2学期：1人1授業、ユニット型研修会

1人1授業や低・中・高学年の代表が研究授業を行うユニット型研修会では、カリマネ熟議を生かし教材研究を行った単元を取り上げることや、付けたい「ことばの力」を明確にして授業することを心がけています。

#### 3学期：カリマネ ミーティング

1年間の取組を反映させた単元配列表を当該学年担任に、1年間を振り返って整理した学年マネジメントシートを次年度に引き継げるようにします。



# 授業の質の向上を図る年間のスケジュールリング例

1年間の流れが見える

## 1学期：カリマネ ミーティング

【例】4年の年間指導計画(抜粋)

① 学校教育目標と前年度から引き継いだ課題を基に、めざす児童像を決めます。

【4年の例】感性・情緒を働かせ、学びの成果や発見を表現することができる。

② めざす児童像に迫るために、付けたい力(ことばの力)を3つくらいに絞ります。

【4年の例】相手のよさを認める力、話の中心を聞く力 など

③ 付けたい力をどの教科・単元等で重点的に育てていくかを決め、教科と教科を付けたいことばの力で結び、授業づくりのポイントを話し合いながら書き込んでいきます。

教材研究が深まる

## 夏休み(7月)：カリマネ熟議



①【プレゼン】めざす児童像と付けたい力、1学期の成果と課題について、地域の方に分かりやすく伝え、取組等について意見をいただきます。

紹介していただいた周南地区の漁業協同組合の方と夏休み中に打合せを行うことで、2学期の授業づくりがスムーズに進みました。また、実際にお話を伺い、非常に効果的な教材研究ができました。(担任)



②【熟議】AO版に拡大した単元配列表を囲み、2学期以降の授業について、使えるような地域素材やゲストティーチャー等の情報を地域の方から収集していきます。新たな視点をいただくこともあります。

次年度につなぐ

## 3学期：カリマネ ミーティング

周南市立徳山小学校 学校・地域連携カリキュラム

学校教育目標  
「敬愛」「愛校」の精神に基づき、一人ひとりの夢の実現のため、その基礎となる確かな学力、豊かな心、健やかな体を育成する

＜重点的に育成を目指す児童・能力・言語能力＞

1 年	簡単に終わるように作ったり経験したことに基づいて話すことができる
2 年	長文を読み通して、自分の思いや考えを自分の言葉で、分かりやすく相手に伝えることができる
3 年	分かったことや自分の考えを整理して伝えることができる
4 年	感性・情緒を働かせ、学びの成果や発見を表現することができる
5 年	自分の考えを、相手に分かりやすく、自信をもって伝えることができる
6 年	他者意識をもた、筋道を立てて、論理的に自分の考えを説明できる

めざす児童像

重点教科・単元のみ

子どもたちの「ことばの力」に係る成果と課題、授業実践を振り返り、引き続き「ことばの力」を育てられるよう、「学校・地域カリキュラム」や学年の単元配列表、学年マネジメントシート(Q14参照)の重点目標や実態等を見直していきます。

子どもの力の伸びを見取る

## 2学期：1人1授業・ユニット型研修会

◆学年・教科等・単元(題材)名◆ 第4学年 理科「もの温度と体積」 ◆日時・場所◆ 11月15日(火) 理科室⑤(5校時) ◆授業者◆

本時の主題(ねらい) 話し合いは15:15頃の予定

実験結果を基に、分かったことや発見したことについて話し合うことで、空気は温度による体積の変化についての関係を探ることができる。

話し合いの意図	(単元計画)
複数の実験結果の時軸を友達と行うことによって、問題(空気は温度によって、体積が変わるのか)に対する結論を導き出す。	① 用いた気球の空気を変えたためと、どうなるか調べる。
話し合いを通して付けたい力	② ③ 空気は温度によって、体積が変わるのかわかる。
複数の実験の結果を友達と話し合い、問題に対する答えを多面的に考える力。	④ ⑤ 水も空気のように、温度によって体積が変わるのかわかる。
	⑥ ⑦ 金風も、温度によって体積が変わるのかわかる。
	⑧ 学習したことをノートにまとめる。



付けたい力に応じた場の設定



「ことばの力」の育成をめざして、令和4年度の校内研修のテーマは「意図を明確にもった話し合いの授業づくり」とし、指導案に「話し合いの意図」と「話し合いを通して付けたい力」を明記しています。(研修主任)

授業の主眼は達成されたか、「ことばの力」は育まれたか、地域の方から評価していただくのは大事です。(学年主任)

# Q6 よりよい社会の創り手となる子どもを育てちよる？



## 学校や地域の課題解決に向けた美祢市立大嶺中学校の取組

地域課題を反映した学校教育目標の設定  
「美祢を語り、夢を語れる地域の担い手の  
育成と豊かな地域づくりをめざして」

校訓（自主・協力・誠実）と資質・能力の三本柱との一体化を図りながら、何ができるようになるかを意識してめざす子ども像を設定しています。三本柱と一体化させることで、授業での資質・能力の育成が強化されます。

めざす生徒の姿～何ができるようになるか～

【学びに向かう力、人間性等】

誠実：大嶺中生徒の良さを大切に学び続ける生徒

【知識及び技能】

自主：基礎・基本を身に付け提案やチャレンジをする生徒

【思考力・判断力・表現力等】

協力：主体的に行動し、協働的な実践ができる生徒

資質・能力の育成を図るカリキュラム

総合的な学習の時間を核とした、美祢を語り、夢を語れる提案と実践を意識した学びの場をカリキュラムに位置付けて実施



学級会で生徒総会に提出する提案を練る  
⇒課題が自分事になる



生徒総会で各学級の提案を発表し、選択・判断する場の設定



「チーム大嶺中会議」で熟議し、実現に向けた意見を地域から取り入れる



3年生が生徒と保護者で手作りする「お祭り」へ計画を修正



ユメサポフェスタの実施

→ チーム大嶺中会議(報告)  
→ 評価・改善へ

ここが  
いいね!

子どもたちの思いや願いを実現させたいという教職員、保護者、地域の方々に支えられ、**学校での学びが地域の活性化**につながっています。

子どもたちにとっては、**提案したことが実現**することにより、大人になったら地域のために何かしたいというよりよい社会の創り手としての自覚や自己肯定感、郷土愛が育まれています。

中学 3 年 大塚中 美祢を語り、夢を語る地域の担い手の育成と豊かな地域づくりをめざして  
令和 4 年度 総合的な学習の時間を核とした教科等横断的指導計画（単元配列表）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総合	『美祢再発見』											
国語	習字 Aの指導士の指導について自分なりに評価する	読書 自分の読書と他人の読書	読書力の向上 「読む力」を高める	「読む力」を高める 「読む力」を高める	読書の楽しさを知る 読書の楽しさを知る							
社会	太平洋戦争	高度経済成長	少子高齢化	地方自治								
数学	文字の活用	平方根	平方根	平方根	平方根	平方根	平方根	平方根	平方根	平方根	平方根	平方根
理科	運動とエネルギー	運動とエネルギー	運動とエネルギー	運動とエネルギー	運動とエネルギー	運動とエネルギー	運動とエネルギー	運動とエネルギー	運動とエネルギー	運動とエネルギー	運動とエネルギー	運動とエネルギー
英語	Sports for Everyone	Sports for Everyone	Sports for Everyone	Sports for Everyone	Sports for Everyone	Sports for Everyone	Sports for Everyone	Sports for Everyone	Sports for Everyone	Sports for Everyone	Sports for Everyone	Sports for Everyone
音楽	滝廉太郎「花」	日本の歌の文化	日本の歌の文化	日本の歌の文化	日本の歌の文化	日本の歌の文化	日本の歌の文化	日本の歌の文化	日本の歌の文化	日本の歌の文化	日本の歌の文化	日本の歌の文化
美術	文化祭の作品展示・鑑賞	文化祭の作品展示・鑑賞	文化祭の作品展示・鑑賞	文化祭の作品展示・鑑賞	文化祭の作品展示・鑑賞	文化祭の作品展示・鑑賞	文化祭の作品展示・鑑賞	文化祭の作品展示・鑑賞	文化祭の作品展示・鑑賞	文化祭の作品展示・鑑賞	文化祭の作品展示・鑑賞	文化祭の作品展示・鑑賞
保健体育	運動会	運動会	運動会	運動会	運動会	運動会	運動会	運動会	運動会	運動会	運動会	運動会
技術	安全に利用するための情報	安全に利用するための情報	安全に利用するための情報	安全に利用するための情報	安全に利用するための情報	安全に利用するための情報	安全に利用するための情報	安全に利用するための情報	安全に利用するための情報	安全に利用するための情報	安全に利用するための情報	安全に利用するための情報
家庭	お母さん	お母さん	お母さん	お母さん	お母さん	お母さん	お母さん	お母さん	お母さん	お母さん	お母さん	お母さん
道徳	好きな仕事や得意なことがある	好きな仕事や得意なことがある	好きな仕事や得意なことがある	好きな仕事や得意なことがある	好きな仕事や得意なことがある	好きな仕事や得意なことがある	好きな仕事や得意なことがある	好きな仕事や得意なことがある	好きな仕事や得意なことがある	好きな仕事や得意なことがある	好きな仕事や得意なことがある	好きな仕事や得意なことがある
特活	学年開き	3年生の生活を考える	3年生の生活を考える	3年生の生活を考える	3年生の生活を考える	3年生の生活を考える	3年生の生活を考える	3年生の生活を考える	3年生の生活を考える	3年生の生活を考える	3年生の生活を考える	3年生の生活を考える

加筆・修正中の中学3年生の単元配列表

ここが いいね!

- 単元配列表に適宜加筆修正して、改善につなげている。
- 資質・能力を意識し、教科等横断的に俯瞰できる。
- 1年生から段階的に資質・能力を積み上げている。



段階的な資質・能力の積み上げ

1年生

提案



北海道三笠市ジオパークとの交流を通して石炭遺構の課題について議論

2年生

発信



SNSを使って「美祢市の宝」を発信

3年生

実践



みんなでアイデアを出し合い、地域の方と触れ合えるお祭りの企画を考案

地域の活性化

学校課題、地域課題を解決していくための学習が、「学校・地域連携カリキュラム」の単元配列表の中に位置付けられていることがポイントです。総合的な学習の時間で取り上げている学びを核として、他教科の専門性、他学年と螺旋的にどのようにつながっているか、つなげていけばよいかを見つけていきましょう。

# Q7 子どもたちは自分の学校のことを語れちよる？

## やまぐち CS プレゼンツ2021 推奨校の山口市立小郡中学校の取組

生徒が作成したプレゼンテーション（学校や地域の紹介・説明・アピール）は、生徒が主体的に地域づくりに関わり、地域の方と一緒に学校行事をつくっている小郡中学校の魅力を効果的に伝えています。



### 学校や地域の魅力を **生徒が語った** CSプレゼンツ

生徒が作る・語る

#### 小郡中学校を核とした地域づくり

##### 生徒会を中心とした地域創生

生徒が主役の熟議・発表で地域課題に提言

#### 地域とともにある小郡中学校

##### 意図的・系統的な地域連携行事

###### 地域探訪

9月24日（金）に1年生全員が地域探訪を行いました。班別で地域の名所をウォークラリーしながら回り、チェックポイントで**地域の方から説明**を受けました。事前に地域の方から説明を受け、地域のことを学んでから行いました。

実行委員は、念入りに事前研修を受けています。おごおり地域づくり協議会の野村さんと吉松さんから説明を受けました。加えて終了後は**地域情報誌**に掲載していただきました。

当日の様子です。6、7人のグループで小郡地区を回り、地域の方から説明を受けています。**地域とのつながり**を強く感じて、地域の方も生徒もとても充実した1日過ごすことができました。

#### 地域とともにある小郡中学校

##### 意図的・系統的な地域連携行事

###### 未来座（未来を語る座談会）

地域から約80名の方に来ていただき、自らの生き方について考えます。今年で4回目を迎え、より地域密着型での開催となりました。生徒が大人に1対1で**自分の生き方**を話す場面と大人の生き方を聞く場面があります。

地域の方には、あらかじめ**課題**を受けてから参加していただいています。地域からの参加者は**交流センター**が中心となって集めてくださっています。

### 生徒が主役の熟議～「小郡中学生と語ろう」「学校運営協議会」など

生徒が司会・発表



全国学力・学習状況調査の結果や授業の様子から、「資料を活用する力」「自分たちの考えを表現する力」「課題を解決する力」が向上してきたと思います。

意見をまとめたり、深めたりする力が身に付いたと感じています。



小郡のよさは何か考えることが増えました。

子どもも大人も取組を通じて、**手応えや、学校・地域のよさ**を感じる大切です。

# Q8 子どもが自らの学びをマネジメントできるように育てちよる？

## 子どもと一緒にカリキュラムをつくる防府市立華浦小学校の取組

子どもから付けたい力や思いを引き出し、「子ども用グランドデザイン」を作成しています。教職員や地域の方々は、様々な取組を進める際、必ずこの「子ども用グランドデザイン」に立ち返り、取組の意義を子どもたちと共有しています。そうすることで「今、自分はこの課題のためにがんばっているんだ」という目的意識が芽生え、主体的な活動が展開されています。



ここがいいね！

### 【大人用グランドデザイン】



### 【子ども用に作成したグランドデザイン】



やってみよう！

「みんな、これについてどう思う？」等と問いかけ、子どもの声を「学校・地域連携カリキュラム」に反映させていきましょう。

### 最終的な目標

子どもとともにカリキュラムをマネジメントしていく。



資質・能力を発揮する子どもの姿

# Q9 家庭や地域の人々が継続的に関わってくれちよる？

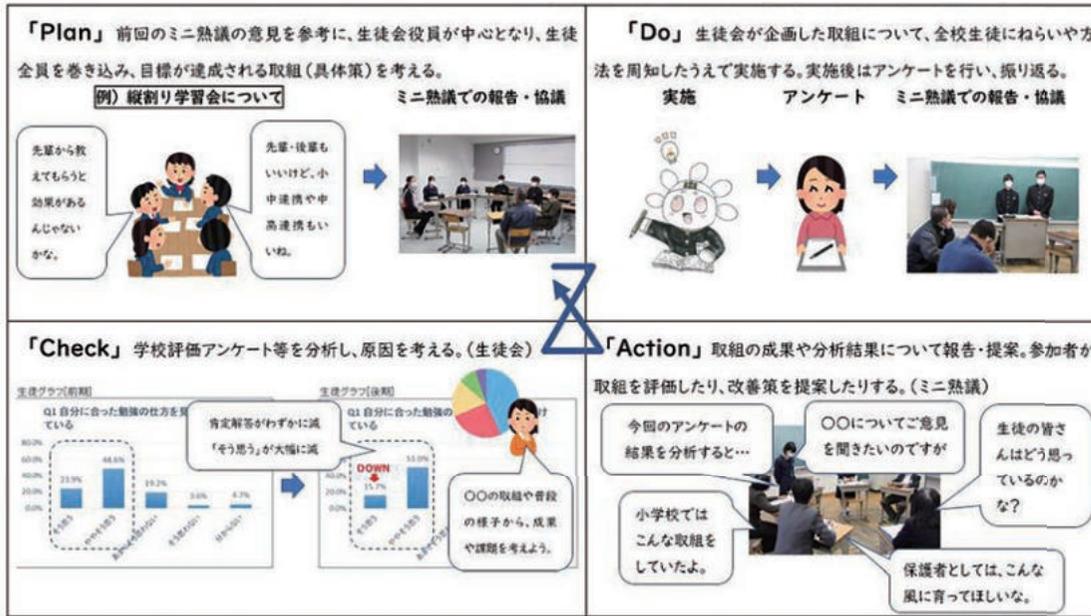


## 学校・家庭・地域がベクトルを合わせて子どもを育てる宇部市立上宇部中学校の取組

校内研修にカリキュラム・マネジメントを位置付け、全教職員と地域の方で、身に付けさせたい資質・能力から教育活動の実施方法や時期を見直し、カリキュラムを再構成する取組を進めています。PDCAサイクルを回しながら、効果的な取組を継続していくことで、生徒の地域行事への関わり方も参加から参画へとグレードアップしています。身に付けた資質・能力を地域貢献活動にも発揮しています。

### 【生徒会・生徒会担当用資料】 「ミニ熟議を軸にしたPDCAサイクル」

※学習支援部会を例にしています。取り組み内容や話合いの様子は架空のもので



※各委員会単独の取組でも、「なにができるようになるか」の目標達成に関わるものであれば、ミニ熟議で取り上げ、意見をもらいましょう。



子どもたちが主役であることを実感できる熟議

子どもたちは  
学校評価の分析と改善策を提案

地域からは  
子どもの願いを実現する提案を行い、  
子どもの成長を価値付け、  
背中を押す存在

### 【乳幼児ふれあい教室】 母子保健推進員とコラボした家庭科の授業



教育課程内

全ての子どもたちの  
資質・能力の向上

### 【花火のつどい】 地域のイベントに生徒が参画



教育課程外

全ての子どもたちの  
資質・能力の向上

人とつながる楽しさを知る

人とつながる楽しさを知る

# Q10 学校と地域をつないでくれる人がいることを知っちゃる?



## 地域学校協働活動推進員が躍動する山口市立小郡南小学校の取組

地域学校協働活動推進員が教職員とつながって、地域のよさを生かした感動ある体験活動を充実させています。地域学校協働活動推進員と強力な連携体制・信頼関係を築くことで、人と人のつながりの輪が大きくなり、みんなの願いを叶える魅力ある教育活動が次々と生まれています。



地域学校協働活動推進員

地域の指導者

### 俳句づくり

「秋にふさわしい俳句」  
に取り組む国語の授業



地域学校協働活動推進員のお話を聞いてみよう

思い切りやってみよう。  
よいことはみんなで続けよう。(校長)



地域学校協働活動推進員は、学校と地域の架け橋として重要な役割を担っています。この方は「**学校に来ることが楽しくてしょうがない**」と頻繁に学校に来ています。教職員ともすっかり顔なじみで、直接やり取りしながら、子どもに豊かな力を付ける授業を共に創っています。

教職員は転勤がありますが、地域につながりをもっている地域学校協働活動推進員がコーディネートする授業は、より一層**持続可能な取組**になります。



おかしあそびまつり  
PTAを巻き込み、  
保護者にも好評!



### みんなで伸びよう 「みんな伸びプロジェクト」

(每学期後半に実施)  
©地域ボランティア、  
小・中学校教員  
(10名以上による丸つけ)  
★やまぐちっ子学習  
プリント、復習問題等



ごみ0大作戦!  
地域学校協働活動  
推進員の働きかけ  
↓  
学校・地域・家庭  
総勢800名参加

# Q11 校種間、学校と地域をがっちりつなぐ仕組みは整っちゃう？

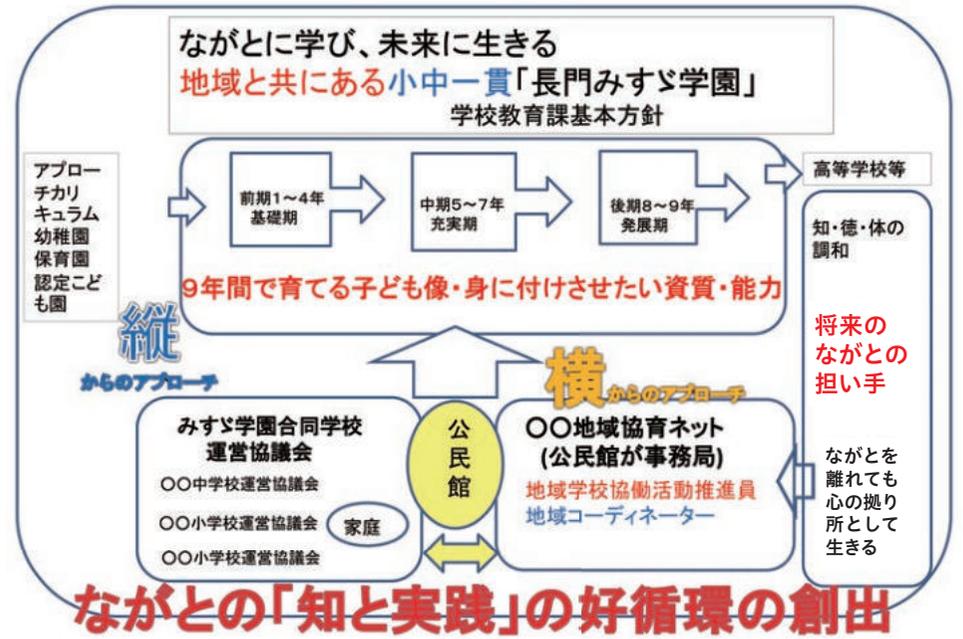
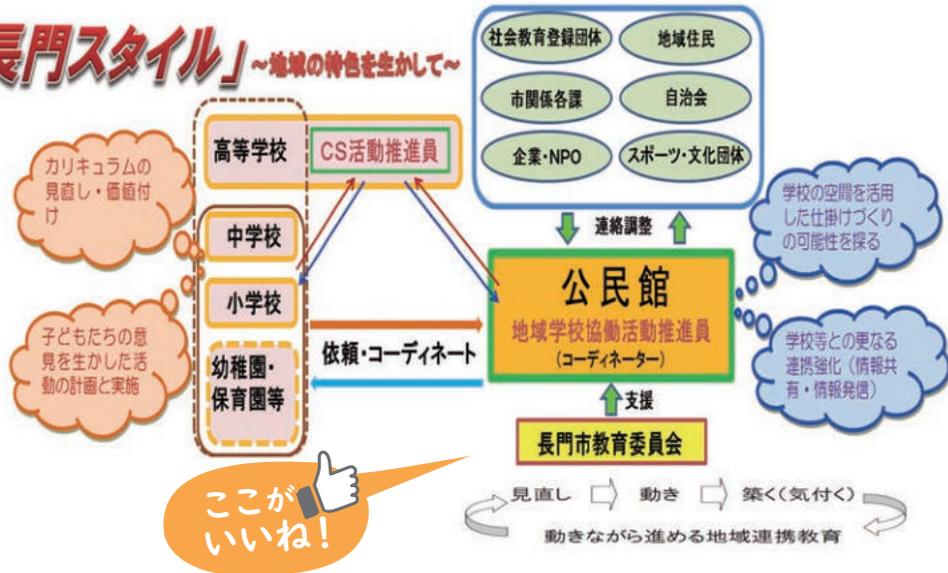


## 学校と地域を公民館がつなぐ長門みすゞ学園の取組

長門市では、公民館を中心として中学校区が結び付く学園構想による一貫教育を進めています。公民館長が地域学校協働活動推進員であるという強みを生かし、園、小・中学校と地域の連携強化だけでなく、高等学校へのつながりも円滑に行われています。公民館職員がコーディネートを行うことで、教職員の働き方改革にもつながっています。

【長門市の推進構想 長門の未来を託す 子どもたちを育てる】

### 「長門スタイル」～地域の特色を生かして～



公民館を核とした各中学校区の取組を市の教育委員会がしっかり支援

### 【三隅地区夢プランに係る熟議】

- 三隅公民館が主体となり、1中2小の児童生徒による熟議を実施
- 熟議テーマ「子どもの考えを協働のまちづくりに生かす」
- 公民館が積極的に小中連携を推進



公民館を仲立ちとした小・中学校の学校運営協議会の縦のつながりと地域協育ネットの横のつながり



# Q12 カリキュラム・マネジメントって管理職がするものって思っちゃらん?

## カリキュラム・マネジメントができる教職員を育てる防府市立松崎小学校の取組

学校のミドルリーダーが、カリキュラム・マネジメントの大切さを深く理解していることが、カリキュラム・マネジメントの充実度を定める大きなカギになります。管理職の理解の下、ミドルリーダーが役割を担い、カリキュラム・マネジメントに参画することで裾野が広がっていきます。

令和4年度 防府市立松崎小学校 学校経営基本構想

目標設定・中期計画・やまはら健康プラン 山口県立総合教育センター・山口県立総合教育センター	<b>校訓</b> 至誠・勤勉	防府市立松崎小学校 学校経営基本構想 アソビ・アクション 挨拶・笑顔・歌・読書・清掃・花・ボランティア
--	--------------------	--

めざす教職員像 信頼される教職員 豊かな人間性・確かな専門性	めざす学校像 美しい学校 美しい心・美しい環境	めざす児童像 自ら判断できる子 かしこい子・やさしい子・つよい子
--------------------------------------	-------------------------------	--

学校教育目標  
未来社会を主体的・創造的に切り拓くたくましい児童の育成

研修主題  
自ら学び、豊かに学び合う子どもの育成

チャレンジ目標  
心を伝える「あいさつ」「言葉」「そうじ」

新しい生活様式を踏まえた「カリキュラム・マネジメント」の実施 学校評価の実施 (年2回)

【学力向上】 ◆主体的に学習に取り組む態度 ●学力向上と授業改善 □学力向上プランの実施	【心の豊かさ】 ◆豊かな心とたくましく生きていく力 ●科学的探究力の推進 □あそび運動・あそびのたのしみ・なかなし活動の推進	【体力向上】 ◆バランスのとれた健康・体力 ●早寝・早起き・朝ご飯の推進 □レインボーフィーク・新体力向上プログラム
---	---	---

見直し・改善

学校の教育活動の支援・地域での児童への教育的支援

○わくわく教室 ○放課後子ども教室 ○地域対学学習 ○学習(習字・そろばん・ミニ絵画)の補助 ○老人クラブとの交流(昔遊の節) ○直前寺子屋 ○お母さん歴史ウォークラリー ○公民館子どもお茶会	○中学校と連携した挨拶運動 ○中学校と連携したボランティア活動 ○放課後子ども教室 ○見守り隊による見守り活動 ○読み聞かせボランティア ○夏休み水当番 ○子ども会活動 ○おやじの会による活動 ○子ども食堂	○体育的行事の支援 ○クラブ活動 ○子ども会 ○境友大会
---	---	---------------------------------------

「学校地域連携カリキュラム」を活用した、活動のPDCA評価(社会に開かれた教育課程)

松崎小学校学校運営協議会 (関係者・地域住民・校長・教職員・学級運営者・関係行政機関の職員)  
※協議会の発足を得るもの: 教育委員会・協議会・学校運営協議会・学校評価・施設管理課・保健室等の関係者

国府中校区地域教育ネット・佐波中校区地域教育ネット  
ふるさとを愛し、ふるさとから愛される、心豊かな子ども  
挨拶(心を伝える挨拶)・掃除(サイレント掃除)・言葉(時と場合をわきまえた言葉遣い)・時間(始業前着席)

### 人材育成

#### 管理職の思い

授業や学校行事を中心となって進めている学年主任等に、カリキュラムをマネジメントする意識をもって、学校運営に参画してもらいたい。

#### プロジェクト会議(ミドルリーダーがプロジェクトを推進)話合いの内容(一部)

- ・小中連携のために、チャレンジ目標に「時間」を追加しよう。
- ・「主体的」を、「めあてに向かって」のように子どもや保護者に伝わりやすい表現に変えよう。
- ・学校評価アンケートの文言と揃えよう。
- ・数値目標を子どもの実態や学校評価を基に見直そう。
- ・地域の方にも分かりやすい表現に変えていこう。



#### 学年主任等によるカリキュラム・マネジメント会議(5月初旬)

- 会議の目的【学年主任がカリキュラムの推進役となる】  
児童と教職員が意欲的に取り組むことのできる教育課程の編成と実行
- 会議の内容
  - ・学年主任が集まり、年間指導計画、学校・地域連携カリキュラム等の取組を俯瞰し、評価や振り返りを行う。
  - ・1年間の見通しをもち、学年の特色を配慮した改善等を考える。
  - ・留意点や保護者や地域との連携等について、経験者から助言をもらう。
  - ・会議での助言等を基に、1年間のカリキュラムの見通しをもつ。





# Q13 研修が教育活動に生かされちよる？

## 各種研修会や校内研修を活用した見直しの促進・課題克服

各学校で育成をめざす資質・能力を育むためには、教職員は学び続けることが必要です。各種研修会に参加して知識をブラッシュアップしていきましょう。研修の成果を教育活動に生かして、PDCAサイクルを回していくことが大切です。

### 【キャリアステージに応じて付けたい力（教諭の一例）】

ステージ1 【実践】	ステージ2 【協働】	ステージ3 【リーダーシップ】
○ 学校指導要領に従い、学校教育目標の達成に向けて、教育課程に基づいて児童生徒の実態に応じた指導に取り組んでいる。	○ 自校や地域の特色を生かした教育課程の編成に当たり、積極的に提言している。	○ 自校や地域の特色を生かした教育課程の編成に積極的に参画している。

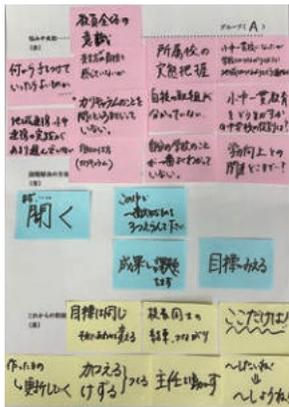
県教育委員会では「学校・地域連携カリキュラム」を機能させるためのキャリアステージに応じた研修会を設定しています。オンライン研修に全教職員や学校運営協議会委員が参加している学校もあります。多くの人がカリキュラム・マネジメントを理解し、実践することが、子どもたちに力を付ける早道です。

### 【ICTを活用した好事例の情報収集】 ▼スライドの一例



中学校区でクラウドを活用し、熟議の様子や学校の「うり」などのスライドを作成することで情報共有が容易になります。また、コメントで価値付けることで取組の促進にもつながります。

### ◆研修の仕方の例 【視点を示して意見を整理】



#### 【赤ふせん】

カリキュラム・マネジメントを推進する上での悩みやうまくいかなかったこと

#### 【青ふせん】

課題解決の方策として考えられること

#### 【黄ふせん】

これから取り組んでいきたいこと

ここが いいね!

成果や課題を共有して終るのではなく、次の一手まで示すことが重要

### 【手引きを活用する】



カリキュラム・マネジメントの理念に常に立ち返るようにしましょう。



「カリキュラム・マネジメントの手引き」(理論編)



# Q14 子どもたちの声を学校運営に生かしちよる？

## 学校評価アンケートを活用する周南市立徳山小学校の取組

カリキュラム・マネジメントを進めるには評価がポイントとなります。各種アンケート結果を取組の見直し・改善につなげていきましょう。

### 評価についてのチェック

□ PDCAサイクルのP（計画）の中にC（評価の計画）を入れてありますか。

→計画の段階で、何をどのように確認するかを明確にしておくことで、PDCAサイクルを効率よく回すことができます。

□ Cで評価・確認することは何ですか。

→「子どもの意識・行動の変容」を確認・評価しましょう。どんなことがプラスにつながっているのかを分析し、次の戦略に生かしていくことが大切です。

□ アンケートの質問はどんな工夫をしていますか。

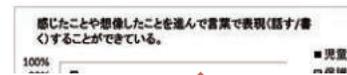
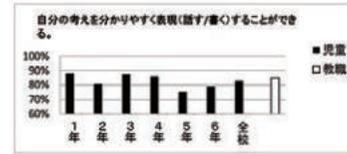
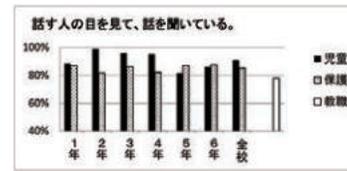
→子どもが質問の内容を理解していることが大切です。子どもが理解していないと「まあまあ」「どちらかといえば…」という回答が多くなります。

### 学校評価アンケートの結果

5	話す人の目を見て、話を聞いている。											
	児童						保護者					
選択肢	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
当てはまる	61	63	53	60	34	43	29	31	27	25	34	38
どちらかといえば、当てはまる	23	24	39	36	42	55	45	49	55	44	34	47
どちらかといえば、当てはまらない	4	1	4	2	14	12	9	15	11	14	9	9
当てはまらない	7	0	0	3	3	4	17	2	3	2	1	1
肯定回答数	84	87	92	96	76	98	74	80	82	69	68	85
肯定回答率	88.4%	88.9%	95.8%	95.0%	81.7%	88.0%	87.1%	81.8%	86.3%	82.1%	87.2%	87.8%

6	自分の考えを分かりやすく表現(話す/書く)することができる。											
	児童						保護者					
選択肢	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
当てはまる	62	38	38	43	34	26	241					
どちらかといえば、当てはまる	21	33	47	44	35	64	244					
どちらかといえば、当てはまらない	6	9	9	12	16	18	70					
当てはまらない	5	8	3	2	7	6	31					
肯定回答数	83	71	85	87	69	90	485					
肯定回答率	88.3%	80.7%	87.6%	86.1%	75.0%	78.9%	92.6%					

7	感じたことや想像したことを進んで言葉で表現(話す/書く)することができる。											
	児童						保護者					
選択肢	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
当てはまる	60	41	63	69	39	38	361	391	361	311	361	311
どちらかといえば、当てはまる	23	24	39	36	42	55	219	45	49	55	44	34
どちらかといえば、当てはまらない	4	1	4	2	14	12	37	9	15	11	14	9
当てはまらない	7	0	0	3	3	4	17	2	3	2	1	1
肯定回答数	83	71	85	87	69	90	485					
肯定回答率	88.3%	80.7%	87.6%	86.1%	75.0%	78.9%	92.6%					



前期（7月）と後期（12月）に、子ども、保護者、教職員を対象に実施するアンケートに、重点的に育成をめざす「ことばの力」にスポットを当てた質問項目を設定しています。それぞれ夏休み、冬休みに結果を集計、共有します。

学校評価アンケートと教職員による評価（授業での子どもの様子等）を通して、学年部で作成する「学年マネジメントシート」に反映させ、取組の改善につなげます。

ここがカギ

### 学年マネジメントシートへの反映

学年マネジメント 第3学年		令和4年度 周南市立徳山小学校 1学期				
めざす児童像	学年目標	学校教育目標	重点目標、○主な教育活動・取組	学年の実態	A評価の状況	学期末の進捗状況及び次学期への改善策
やりとげるまで頑張る子	自分も周りの人も温かい気持ちになれる子	確かな学力	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が主体的に取り組む授業の実践</li> <li>課題把握しやすい導入の工夫</li> <li>相手の気持ちを考えた聞く力の育成</li> <li>学習の中での話し合い活動の設定</li> <li>聞く姿勢の価値付け</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習に取り組む姿勢が二極化している。学習を自分事として捉えられていない児童がいる。</li> <li>相手の方を向き、最後まで話を聞くことが難しい児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習に主体的に取り組む姿勢が各クラス90%以上に見られればA。</li> <li>人の話を最後まで聞く姿勢が身に付いた児童が各クラスで90%以上であればA。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A どの学級も概ね学習規律を守り、学習に取り組むことができる。学習に主体的に取り組む児童は97%。学習に対して意欲がなかなかもてなかった児童も、課題把握の時間を丁寧に行ったことや通級との連携をもとに少しずつ力を付けている。2学期以降は、ペア学習やグループ学習を活用し、話し合いによって学習を深められるようにしたい。</li> <li>A 人の話を聞く姿勢が身に付いてきている児童は95%。話し合った内容の理解が難しい児童が数人いる。担任が話をしている際は、順序立てて話したり、視覚的に提示したりする。また、国語科の授業と関連付けて、分かりやすい話し方を意識させる。</li> <li>A 友達の話が分かるようになってきた児童は9</li> </ul>
まごころ	くふう、	豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほかほかしくさ人間関係作り</li> <li>○掃りの会での、</li> <li>○振り返りカード</li> <li>■自分のよさに</li> </ul>	ほかほかしくさ		

同じ対象（子ども）の結果を比較し、例えば「○年生の時は…だったが、こんな取組をすることで▲年生でこうなった。」と言えるよう分析していくことが必要です。

ここがカギ

# Q15 めざすところが見えちよる？



これまでの教育課程

**教職員が** 子どもに何を教えるか (教えたか) **教職員**



これからの教育課程

**子どもが** 身に付けるべき力は何か  
**子どもが** 何をどのくらい身に付けたか  
**子どもが** 何をどこまで到達したか

子どもの実態  
地域の実態  
社会の変化

子ども

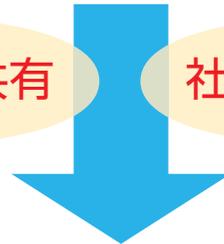
教職員

保護者

地域住民

家庭・地域と共有

社会と連携・協働



「社会に開かれた教育課程」の実現  
**「学校・地域連携カリキュラム」**



県教育委員会では、令和3年度から2年間、28名の学力向上推進リーダーを核として「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた取組を推進してきました。この取組の成果を、カリキュラム・マネジメントの手引きとして示しています。作成にあたっては、山口大学教職大学院教授の静屋智先生、特命教授の松田靖先生、地域連携教育エキスパートの木本育夫先生に御助言いただきました。各学校において、カリキュラム・マネジメント推進の参考としていただきたいと思ひます。